

オレのすること、できること

所属	三重県 私立海星高等学校	実践者	小林 一憲 (G)
対象	高校3年生	時間数	2時間
場所	本校第2体育館	実践教科	特別編成授業
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・青年海外協力隊、ボランティア、専門家の存在、活動を知り、興味を持って自分のできることについて考える。 ・「外の世界」を知ることの面白さ、楽しさを知り、知らないことへの恐れを無くす。 ・何事も「吸収する」「学ぶ」という主体的な意識を持つことで自分自身の肥やしにする。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 席替え ○ アイスブレイキング(自己紹介) ○ 世界の国々との関係性を知る <ul style="list-style-type: none"> ① 「もし、日本が完全に“鎖国”をしたら…??」 ⇒現在の生活の中で海外との取引がなくなった場合、存在しなくなるもの、また大幅に減るものは何かをグループで考えさせる。 ⇒各グループで出したものを2つずつ挙げさせる。 …日本と世界の関わりがとて密であることを意識させる。 ② JICA の事業 ⇒資料を配り、熟読させ、気になった3カ所に線を引かせる。 ⇒各人が知った JICA の取り組みについてグループ内で説明させる。 	グループ分けのポップ A4 用紙、水性マジック A3 用紙 JICA パンフ
2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界で活躍する日本人の活動 ⇒ガーナで活躍する日本人へのインタビューの紹介 ○ 今日の世界における課題 ⇒今日、世界で起こっている様々な課題とはどんなものがあるかを各グループで挙げさせる。 ○ 国際協力とは何か 知る→気付く→行動する→継続する→定着する =「SUSTANABILITY」⇒片渚さんのお話の紹介 ○ 自分のできること <ul style="list-style-type: none"> ①自分の得意なこと、人のために発揮できる力 ⇒自分の特技について考えさせる ⇒各グループで発表し、それぞれの「貢献」について知る。 ②今日からできること ⇒グループでまず何ができるか、統一した意見を挙げさせる。 ⇒グループで出した意見を発表させる。 	写真、ムービー ムービー	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが JICA について「知らない」から「知っている」へと変化した。 ・国際協力に関してのキーワードである「SUSTANABILITY」について考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・何度かの継続的に授業を実践することで、より興味を持ってもらえるように練りこむ。 ・きちんと成果を保存し、次回に繋げる必要がある。 		
備考			

[授業実践の詳細]

1 時限目「オレのすること、できること Part.1」

1 子どもの活動の流れ

- ① 自分を漢字一字で表現したら？(自己紹介)・・・自分を漢字一文字で表現することと、周囲は自分をどのように形容するかを知る。自分が思った漢字と、本人が考えた漢字の違いについて知る。他者理解。
- ② もし日本が完全に「鎖国」をしたら？・・・日本と外国の関係がいかに関接であるかという事に対する理解を深める
- ③ JICAを知ろう・・・JICAの資料を読み込み大事だと思ったところ、興味深いと思ったところ3か所に線を引き、その部分をもとに自分が知ったJICAの取り組みを互いに伝え合う。それにより、JICAの取り組みについて知る。(教材1)

この時限のねらい

- ・自分を表現する。他者の表現も知ること、自己分析と他者理解につなげる。
- ・日本と世界が密接につながっていることを意識する。
- ・JICAの取り組みを知る。

2 子どもの活動の成果・反応

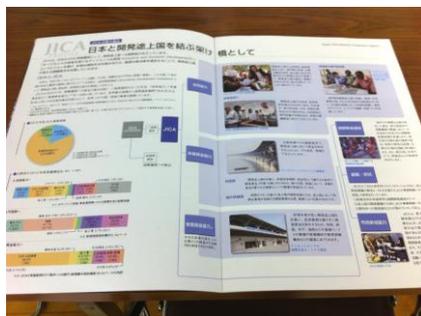
- ◇ 『『鎖国』ゲーム』を通し、日本が外国と輸出入を完全に絶つと仮定することで日本にはどのような影響があり、私たちの生活はどう変化するのかということ考えた。自分たちの普段の生活の中における身の回りのものが如何に海外に依存し、また純国産が如何に少ないかという事を考え、日本と世界との関わりについて考える機会となった。
- ◇ JICAのパンフレットの中身で大事だと思ったところに線を引かせる作業をすることで、それぞれしっかりと読み込んでいた。国際協力の必要性について考える機会となったとともに、JICAがどのような事業を行っているのかを知ることができた。

3 使用した教材

<教材1> JICAのパンフレットを印刷したもの(両面に印刷)



↑ 全員に共通して印刷



↑ それぞれに印刷。全部で6パターン。



1 子どもの活動の流れ

- ① ガーナで撮影した写真と映像の鑑賞・・・ガーナに関する理解を深める。
- ② 今日世界における諸問題・諸課題について考える・・・世界ではどのようなことが問題とされているのか。グローバルイシューについて考える。
- ③ 国際協力について考える
- ④ 自分のできること・得意なことについて考える・・・自分が無理をせずにどんなことなら人のためにできるのかを考える。

この時限のねらい

- ・ガーナに関する理解を深める。
- ・グローバルイシューにはどのようなものがあるのかを知る。
- ・自分にできる国際協力とは何かを考える機会とする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナでの写真や映像は珍しいのか多くの生徒たちがいつもより静かに見てくれていた。一つ一つの写真に対して現地で受けた印象を説明したが、よく耳を傾けてくれていた。
- ◇ グローバルイシューに関しては、大学進学に関して小論文のテーマに設定した生徒もおり、具体的なものが挙がるケースも見られた。やはり、戦争・飢餓・領土問題など、ニュースや報道などで取り上げられているものへの関心が高いことがよくわかった。
- ◇ 知る→気付く→行動する→継続するという点をポイントとして、「SUSTANABILITY(=継続する)」ということの重要性を知ることができた。これにより、支援・援助＝募金ということが全てではないということもわかったようである。

3 使用した教材

<教材2> H25 年度教師海外研修受講者が収集したガーナの人物写真

<教材3> H25 年度教師海外研修受講者が収集したガーナで活躍する日本人のインタビュー映像

■ 全体を通して

1 授業の様子

対象が高校3年生ということで進路に結び付けた内容を行った。卒業した大学生とよく話す機会があるが、比較的多くの人間が在学中のバカンスや卒業旅行で海外に行くケースを聞く。ということは、以外にも海外に興味を少なからず持つ土壌があるという事である。本校には海外研修が夏季休暇中に催されているが、参加者はコンスタントにいる。遠い異国の話や世界の現状については、知る機会を与えさえすれば、意識は変わるのではないだろうか。

さて、本題に入るが、授業については、写真の通り、机と椅子に座るという形をやめ、地面に直に座る形をとった。同じ学校・学年でありながら、コースが違い、話したことがない生徒たちである。最初は同じクラスや仲のいい者通しで集合していた。席替えをすると、互いに緊張し、妙な空気が流れていたが、何度かグループワークを進めていく中で、様々な会話も生まれた。

恥ずかしながら、私は本研修に参加するまで JICA という組織に対してその名称も活動内容も知らなかった。だからこそ、高校3年生でありながら基本的なところから話をすることでよく聞いてくれていたように思う。JICA の取り組みを通して、日本の途上国支援の一端について知ってもらう形態となったのではないだろうか。

最終的に、自分の得意なことから自分のできる海外支援について考えてもらった。ごくごく基本的な内容だが、例として以下のようなものが挙げた。

初歩的かもしれないが、素直に海外に対して「壁」を少しは壊せたのではないだろうか。

- ① 友達を作るのが得意・・・違うのは肌や目の色や言葉であり、みんな同じ人間なのだという事を頭に入れ、人間関係を作っていきたい。
- ② 好き嫌いがなく、何でも食べる・・・「モットイナイ」精神を大事にし、「食べられる」ことを大事にしていきたい。
- ③ 語学を学びたい・・・英語で多くの外国人と話をしたい。

<写真1>



<写真2>



<写真3>



2 参考文献・資料

- 1) 独立行政法人国際協力機構『JICA PROFILE』2013年

以上